

02-5 住宅地…落ち着いた色

板橋区には、田園都市として開発された常盤台、高島平などの集合住宅団地をはじめ、多くのマンション等が立地する住宅地がみられます。住宅地では、計画緑地や庭木等の豊かな緑に調和し、暖かさが感じられる「落ち着いた色」を基本とします。

景観要素	配慮を検討すべき範囲	検討範囲の考え方
住宅地	景観要素図に示された住宅地に該当する敷地、及び周辺に立地する建築物の過半以上が住居系建築物の場合	景観要素図に示された「住宅地」の区域（第一・二種低層住居専用地域及び第一・二種中高層住居専用地域に指定されている区域並びに緑豊かな集合住宅団地）、周辺に立地する建築物の過半以上が住居系建築物の場合を指します。
歴史的な戸建て住宅地	景観要素図に示された「歴史的な戸建て住宅地」に該当する敷地	景観要素図に示された「歴史的な戸建て住宅地」の区域を指します。

住宅地らしい暖かく穏やかな街並みを形成する色彩

- ・住宅地としての落ち着きやすらぎが感じられる暖かみのある暖色系の低彩度色を基本とします。
- ・中高層住宅等は、大きい面積での暗い色調の使用を避け、街並みに威圧感を与えないよう配慮します。
- ・住宅団地では、基調となる色相や色調をそろえるなど、建築物相互の色彩の調和に配慮します。



緑豊かな風格ある住宅地を保全する色彩

- ・豊かな緑に調和する木材や石材などの自然素材やそれと共通性のある落ち着いた色彩を基本とします。
- ・植栽やガーデニングによる緑の演出により、緑豊かな良好な住宅地を地域全体で創出します。



地域全体が協力し合う安心・安全が感じられる色彩

- ・中高層住宅などの規模の大きい建築物等は、部位ごとに色彩を分節化するなど、単調で閉鎖的な外観とならないよう工夫します。
- ・地域全体で協力し、ごみ置場や集会室などの共用施設の色彩にも配慮します。



02-6 公園・緑地…憩いの色

区内には、都立公園など、まとまった緑や水辺を有する公園・緑地が多くあり、多様な文化施設が併設された区民の憩いの場となっています。公園・緑地の周辺では、豊かな緑との調和に配慮し、安らぎが感じられる「憩いの色」を基本とします。

景観要素	配慮を検討すべき範囲	検討範囲の考え方
公園・緑地	公園・緑地の敷地境界から 100m の範囲	「公園・緑地」とは、景観要素図に示されたものの他、区、都及び国が管理する公園・緑地を指します。 行為地から、「公園・緑地」が見える場合、もしくは行為によって建設される建築物や工作物が、周辺の公園・緑地から望見される場合に該当します。

公園・緑地の豊かな緑と一体化する落ち着いた色彩

- ・まとまった緑に近接する場合は、緑との明度対比が強い明るい色調を避け、緑に融和する落ち着いた色彩とします。
- ・豊かな緑に調和する木材や石材などの自然素材やそれと共通性のある暖色系の低彩度色を基本とし、冷たい印象となる寒色系の色彩を避けます。



公園・緑地の憩いの雰囲気を保全する色彩

- ・公園・緑地に隣接する建築物等は、圧迫感のある単調な配色を避け、緑に調和する人間的なスケールを保全します。
- ・樹木や緑地より壁面が高く、公園・緑地から望見される場合は、高層部に目立つ色彩を使用することを避け、できるだけ背景に馴染ませます。



自然豊かな景観をつなぐ色彩

- ・公園や緑地側に、植栽やガーデニングによる緑の演出を行い、うるおいある空間を創出します。
- ・植栽柵や柵等の外構の色彩は、当該建築物の外壁との調和に配慮し、木材や石材などの自然素材やそれと共通性のある落ち着いた色彩とします。



02-7 農地…ふるさとの色

都市化が進む板橋にも台地部を中心に農地が残っており、一部は生産緑地や区民農園として保全され、板橋の原風景を想起させる貴重な景観となっています。農地周辺では、農作業の風景や四季の移り変わりが映える「ふるさとの色」を基本とします。

景観要素	配慮を検討すべき範囲	検討範囲の考え方
農地	景観要素図に示された農地の敷地境界から100mの範囲	行為地から、景観要素図に示された「農地」が見える場合、もしくは行為によって建設される建築物や工作物が、周辺の「農地」から望みされる場合に該当します。

土や緑に調和するアースカラーを基本とする色彩

- ・大地の土色や豊かな緑に調和する暖かさが感じられる暖色系の低彩度色を基本とし、冷たい印象となる寒色系の色彩を避けます。
- ・昔から地域で慣例的に用いられてきた自然素材や伝統的建材、それと共通性がある色彩を基本とし、ナチュラルな質感や雰囲気を持つ建材を用います。



豊かな自然に融和し、農地からの解放的な景観を保全する色彩

- ・農地に近接する場合は、土や緑との明度対比が強い明るい色調を避け、豊かな自然と一体となる落ち着いた色彩とします。
- ・規模が大きい建築物等は、壁面の色彩を分節化するなど、規模による威圧感を軽減し、農地周辺のゆったりとしたスケールに配慮します。



自然豊かな景観をつなげる色彩

- ・植栽やガーデニングによる緑の演出により、季節を感じさせる自然豊かな景観を地域全体で創出します。
- ・植栽柵や柵等の外構の色彩は、当該建築物の外壁との調和に配慮し、木材や石材などの自然素材やそれと共通性のある落ち着いた色彩とします。



02-8 工場…活力の色

区北部には大規模な工業・物流施設が立地し、中山道周辺や志村地域では中小規模の工場と住宅地とが共存しています。工場等の色彩は、明るく開放感のある高明度・低彩度色を基本に、生産の場として働き手の活動が感じられる「活力の色」を創出し、働き手と周辺住民の双方に心地のよい景観を形成します。

働き手の活動が映える明るく開放感のある色彩

- ・閉鎖的な印象を与える暗い色調を避け、明るく開放感のある高明度・低彩度色を基本とします。
- ・工場や倉庫等は、定期的なメンテナンスを行い、清潔で親しみやすい外観を保ちます。
- ・塀や柵を用いる場合は、植栽と調和する落ち着いた色彩とし、閉鎖的で殺伐とした外観とならないよう配慮します。



時代をリードする先進性や活力が感じられる色彩

- ・金属やガラス等の素材色を生かすなど先進性が感じられる色使いに配慮します。
- ・外観に変化をつける色彩を用いる場合は、小面積で効果的な表現となるよう工夫し、当該建物の外観全体の調和や街並みとの調和に配慮します。



環境と調和した都心部の工業地らしい色彩

- ・植栽の緑に調和した落ち着いた色彩を基本とし、環境に調和する都心部の工業地としてのブランドイメージを創出します。
- ・住宅など多様な用途の建物が共存する地域では、相互の色彩の調和に配慮します。



03 建築用途と色彩

建築物等の色彩は、住宅や店舗、工場などその用途によって、よく用いられる色彩や傾向があります。

区では、都市計画によって建物の用途を分けた土地利用を進めており、各地域ごとに場の特性を表わす色彩景観が形成されています。

建築物の色彩を計画する際には、それぞれの立地や用途にふさわしい外観を創出し、地域ごとに特徴が感じられるメリハリのある景観を形成します。

住居系建築物…落ち着いたやすらぎ

- ・住居系建築物の色彩は、やすらぎが感じられる暖かみのある暖色系色相の落ち着いた低彩度色を基本とします。



住宅地

住宅地の色彩 P.29

住宅地において、推奨する色彩の範囲やその具体例を定めています。

商業系建築物…にぎわいと風格

- ・商業系建築物の色彩は、歩行者空間となる低層部では商業地としての適度なにぎわいを創出し、眺望景観など広域の景観に影響する高層部は落ち着いた色彩として周辺に馴染ませます。



商業地

住商混在市街地の色彩 P.33

住商混在市街地において、推奨する色彩の範囲やその具体例を定めています。

工業系建築物…活力と先進性

- ・工業系建築物の色彩は、親しみやすく開放的な印象のある白やアイボリーなど明るい高明度・低彩度の色彩を基本とします。



工業地

住工複合市街地の色彩 P.37

住工複合市街地において、推奨する色彩の範囲やその具体例を定めています。

用途が混在する地域の色彩

- ・一方、板橋区には、工場と住宅、商業と住宅など、用途が異なる建築物等が共存している地域も多くあります。このような用途が混在する地域では、開発状況を踏まえて、周辺に立地する建築物等の色彩と共通性のある色彩を基本とし、景観のまともに配慮します。

04 建築の規模や形態に応じた色彩

大規模建築物は、壁面の高さや大きさ等その規模により周辺景観を大きく変えてしまうことがあります。建築物等の色彩を計画する際は、周辺の建築物等や既存の街並みが持っているスケール感を尊重し、下記の点に配慮します。

配色の工夫で威圧感を軽減します

- ・建築物等の規模を考慮し、威圧感や違和感を和らげるような色彩を基調とするとともに、配色の工夫によって周囲の景観になじませるよう配慮します。
- ・色彩の塗り分けは、内壁や外壁、バルコニーなど機能に応じた構造の変化点で色彩を分節化し、形態との相関が低い色分けや具象性の高い絵画的表現は避けます。



白と黒など、明度の差が大きい色彩の組み合わせを用いることは避け、周辺との調和や景観の連続性に配慮します。



建材の材質感を生かします

- ・同じ色彩でも建材の材質感によって大きく印象が変わります。外壁の分節化は、表面的な色彩の工夫だけでなく、異なる建材を組み合わせるなど表情豊かな外観の形成に配慮します。



鏡面仕上げのガラスやソーラーパネルなど、太陽光を強く反射する性質の建材を使用する場合は、反射光が周辺に不快感を与えないよう配慮します。

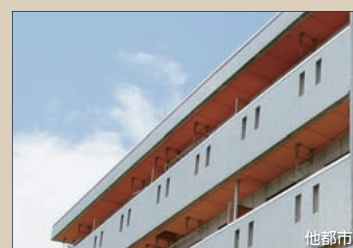


強調色は低層部で効果的に用います

- ・規模の大きい建築物等に複数の色彩を用いることは威圧感や違和感を減らし、より親しみやすいスケール感にするなどのメリットがあります。
- ・一方、個性の強い色彩を高層部に用いると、中遠景などに影響を及ぼすため、強調色を用いる場合は人の目に近い低層部で効果的に用いるよう配慮します。

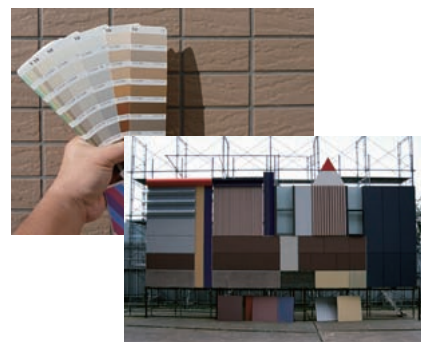


軒天や戸境壁等に高彩度色を用いて独自性を表現することは避け、周辺との調和に配慮します。



05 大規模建築物の色彩設計プロセス

建築物等は個人や企業の資産でも、その外観は多くの人の目に触れることから、地域共有の資産と考えることができます。建築物等の外装色を検討する際は、対象そのものの魅力を高めることはもとより地域の魅力を高めるために、既に蓄積された周辺の色彩や新しい色彩が及ぼす影響などを考慮し、調和の観点を大切にする必要があります。また、建築物等はライフサイクルが長いことから流行や当初の美観だけでなく、経年変化や維持管理に関する配慮も不可欠です。



ここでは景観に与える影響が大きい大規模建築物の色彩設計について、そのプロセスと各段階におけるポイントを紹介します。

●プロセス	●検討内容	●主なチェック項目	
条件整理	計画条件の把握	建築の基本諸元や設計理念を把握します。	全体デザイン、着色可能部位・材料、コストなど
	色彩基準等の把握	本ガイドラインの内容を理解します。	色彩の配慮事項、景観計画色彩基準、地域別の色彩ガイドライン など
現況把握	景観色彩等の把握	周辺の建築物や景観資源等の色彩を調査します。	隣接建築物、沿道建築物、規模の大きい建築物 歴史・文化的要素、樹林・農地などの自然的要素 接道する道路部材、類似用途の建築物 など
	地域の意向の把握	建築物の外観等について、地域の要望がある場合は事前に意向を把握します。	近隣の意向、類似施設における対応状況 など
基本計画	色彩の方向性の検討	与件や周囲の状況に沿って色彩の方向性を検討します。景観に与える影響が大きい大規模建築物は周辺になじむ色彩が基本です。	景観色彩の秩序、適切な色相・明度・彩度のイメージ など
	周辺景観への収まりの検討	建築物等の外観の収まりをフォトモンタージュ等によって評価し、必要に応じ再検討します。	近隣の建築物や景観資源との色彩調和、街のにぎわいや落ち着きの継承、威圧感、違和感の低減など
事前相談 外観のイメージがまとまったら各部の色彩を決定する前に、区への事前相談や周辺との協議調整を行います。			
色彩設計	各種色見本等の入手	基本計画の内容に沿って、外装材料の色見本等を集めます。	各部の色見本とマンセル値 など
	基調色の選定	外観イメージの中心となる基調色を選定します。	大型色見本による色彩や材料の適性の評価、面状や質感・ツヤの確認 など
	各部の色彩選定	外観に補助的に用いる色や細部の色を選定します。周囲の街並みに接する外構の色彩も重要な要素です。	強調色等の必要性和影響の評価、基調色との調和や対比、形態との連携、面積比など
	色彩設計案の作成	基調色、各部の色彩を組み合わせ全体の配色を評価します。必要に応じ、各部の色彩等の再調整を行います。	全体のバランス、周辺の街並みとの協調性 など
事前協議・行為の届出 色彩設計案について区と協議を行います。景観形成基準や色彩ガイドラインに適合し、周辺景観との調和が確認できたものについては景観法・景観条例に基づく行為の届出に進みます。			
※事前協議・行為の届出の後に色彩が変更となった場合は、速やかに窓口にご連絡ください。			
色彩管理	色彩設計監理	色彩設計の内容が適切に反映されるよう監理を行います。色彩の変更等を行う場合は協議や届出が必要な場合がありますので注意が必要です。区は必要に応じ完了時の検査を行います。	
	色彩の維持管理・見直し	完成後も美観が保たれるよう維持管理を行います。また、改修等に際しては必要に応じ色彩に見直しを行うことも考えられます。	

※建築物をとりまく環境は多様であるため、ここで紹介する進め方以外にも必要な過程や配慮がある場合があります。